

各 位

会 社 名 東洋シャッター株式会社
 代表者名 取締役社長 藤田 和育
 (コード番号5936 東・大 第1部)
 問合せ先 常務執行役員経営企画統括部副統括部長 丸山 明雄
 (TEL 06-4705-2125)

業績予想および配当予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、当社は平成21年5月11日の決算発表時に公表した平成22年3月期通期の業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

1. 業績予想の修正

(1) 平成22年3月期通期業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(単位:百万円、%)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益
前 回 発 表 予 想 (A)	19,800	500	400	400
今 回 修 正 予 想 (B)	16,500	△ 315	△ 415	△ 415
増 減 額 (B - A)	△ 3,300	△ 815	△ 815	△ 815
増 減 率 (%)	△ 16.7%	—	—	—
(ご参考) 前 期 実 績 (平 成 21 年 3 月 期)	20,706	355	243	131

(2) 平成22年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(単位:百万円、%)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益
前 回 発 表 予 想 (A)	19,800	500	400	400
今 回 修 正 予 想 (B)	16,500	△ 315	△ 415	△ 415
増 減 額 (B - A)	△ 3,300	△ 815	△ 815	△ 815
増 減 率 (%)	△ 16.7%	—	—	—
(ご参考) 前 期 実 績 (平 成 21 年 3 月 期)	20,706	337	225	132

(3) 修正の理由

当期以降のわが国経済を取り巻く経済環境は、昨年来からの景気停滞に底打ち感は見られるものの、企業収益の改善には依然として不透明な状況にあり、民間設備投資における需要回復には引き続き厳しい状況が続いております。

このような状況下、当社としても中期経営計画に基づく営業諸施策の積極的取組みや生産活動の改善と効率化、一時帰休の実施等人件費を含めた諸経費の削減強化の諸施策を実施していますが、その一方で受注競争は一層激化し、今後も厳しい経営環境が続くことが見込まれます。

当期第3四半期以降の見通しにおいても同様な傾向が続くものと推察されますが、当社といたしましても、営業活動の一段の強化を図りつつ諸経費削減策の徹底を喫緊の課題と考え、収益のさらなる改善に向けて努力してまいります。

しかしながら、当初の想定を上回る受注高の減少等の影響は大きく、売上・利益面ともに前回発表予想を下回ることが見込まれますので、上記のとおり修正いたします。また、連結業績予想の修正の要因は、かかる個別業績の修正に伴うものです。

2. 配当予想の修正

(1) 配当予想数値の修正

1株当たり配当金			
基準日	中間期末 (第2四半期末)	期末	年間
前回予想	8円 00銭	12円 00銭	20円 00銭
今回修正予想	—	5円 00銭	5円 00銭
当期実績	0円 00銭	—	—
前期実績 (平成21年3月期)	12円 00銭	8円 00銭	20円 00銭

(2) 修正の理由

当社は、中長期的な企業価値の向上と株主の皆様方への利益還元のバランスの最適化を経営の最大課題と位置づけております。また、配当の実施においては、企業の経営基盤の強化を図りながら、当該決算期および今後の業績、財務状況等を勘案して総合的に判断してまいりたいと考えております。

一方、本日の業績予想の修正のとおり、当期通期においては当初予想を下回る結果となり、当社の配当方針によれば期末配当も見送らざるを得ない状況であります。

当社といたしましては、こうした現下の厳しい経営環境等を踏まえながら慎重に検討を重ね、前期実績を大幅に下回することは誠に遺憾ではございますが、配当を継続的安定的に実施することが重要と判断いたしました。よって、期末配当予想を上記のとおり修正いたします。

※上記の予想は、本資料発表日現在における入手可能な情報に基づいて算出しておりますが、実際の業績は今後の様々な要因により、記載の予想数値と異なる可能性があります。

以上